

(様式第10)

聖国大第22-1184号

令和 4年 10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人聖路加国際大学
理事長 佐々木 新一

聖路加国際病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号
氏名	学校法人聖路加国際大学 理事長 佐々木 新一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

聖路加国際病院

3 所在の場所

〒104-8560 東京都中央区明石町9番1号
電話(03) 3541 - 5151

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
・上記10,11については、内科において「アレルギー・膠原病科」を設置し、診療を行っている							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合

②「診療実績」欄については、「内科と組合わせた診療科名」欄において、標榜していない診療科がどの科目、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科								
外科と組み合わせた診療科名								
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科	
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科	
診療実績								

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科								有
歯科と組み合わせた診療科名								
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科			
歯科の診療体制								

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	心療内科	2	腫瘍内科	3	緩和ケア内科	4	形成外科	5	病理診断科
6	臨床検査科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
----	-----	----	----	----	----

				520	520	(単位:床)
--	--	--	--	-----	-----	--------

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	397	17	414	看護補助者	109	診療エックス線技師	0	
歯科医師	5	1	6	理学療法士	24	臨床検査 臨床検査技師	106	
薬剤師	52	7	59	作業療法士	5		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	13		その他	0
助産師	71	3	74	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	832	43	875	臨床工学士	36	医療社会事業従事者	8	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	37	
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	1	事務職員	304	
管理栄養士	11	2	13	診療放射線技師	55	その他の職員	0	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	35	眼科専門医	2
外科専門医	19	耳鼻咽喉科専門医	2
精神科専門医	3	放射線科専門医	6
小児科専門医	12	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	6
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	18	救急科専門医	9
		合計	147

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (石松 伸一) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

<ul style="list-style-type: none"> ・聖路加国際病院 2003～2009年セーフティマネジメント委員会(医療安全管理委員会)委員としてインシデントの根本原因分析(RCA)の実施 ・聖路加国際病院 2002～2005年医療ガス委員会 委員長 ・聖路加国際病院 2010年～2020年救急・集中治療部門運営委員会委員長として急変WG活動から院内急変事例の減少を実現 ・2008年日本救急医学会 診療行為関連死の死因究明等の在り方検討特別委員会(有賀 徹委員長) 委員 ・聖路加国際病院 救急部部長、救命救急センター長、集中治療科部長としての医療安全管理の経験 ・2021年管理者就任以降、セーフティマネジメント委員会(医療安全管理委員会)に委員として出席
--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計

1日当たり平均入院患者数	392.6	人	0.5	人	393.1	人
1日当たり平均外来患者数	2212.1	人	62.1	人	2274.2	人
1日当たり平均調剤数	1101.4				剤	
必要医師数	159.7				人	
必要歯科医師数	3				人	
必要薬剤師数	14				人	
必要(准)看護師数	270				人	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	224.04 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	8 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 21.8 m ²		病床数	2 床		
	[移動式の場合] 台数 13 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 78.23 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	230.9 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分析装置クナライザ、乾式臨床化学分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、浸透圧分析装置、分析前工程統合管理モジュール		
細菌検査室	108.72 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌同定検査装置、微生物感受性分析装置、全自動血液培養装置		
病理検査室	310.51 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置、顕微鏡写真撮影装置、自動免疫染色装置、自動賦活装置、電子顕微鏡		
病理解剖室	42.11 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、臓器撮影装置、電動昇降式解剖台、電動解剖ノココントロールモジュール		
研究室	825.12 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、クリーンベンチ、クロマトチャンバー、スライド用細胞遠心機、リアルタイムPCR、サーマルサイクラー、共焦点顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、シークエンサー、フローサイトメーター、液体窒素タンク		
講義室	536.87 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員	282 人
図書室	1666.1 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	64000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	74.5	%	逆紹介率	71.0	%
算出	A: 紹介患者の数		12812		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19727		人

根拠	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	7886	人
	D:初診の患者の数	27787	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全担当副院長 医療安全管理部 部長	○	千葉大学医学部附属病院において医療安全担当副院長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富なこと	無	1
滝沢牧子	群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 副部長		医療の質・安全管理部の助教を務められ、医療安全全般に関する知識が豊富であること。	無	1
七里守	榊原記念病院 循環器内科 主任部長		医療の質・安全学会の代議員を務められ、医療安全全般に関する知識が豊富であること。	有	1
渡邊俊太郎	翼法律事務所 弁護士		関連法務から企業法務まで幅広い分野で活躍され、医療事故調査委員としての実績も十分なこと。	無	1
小林信秋	認定NPO法人 難病のこども支援全国 ネットワーク 顧問		長年にわたって患者支援活動を行っており、医療を受ける者の代表として適任であること。	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院HPに掲載(HOME>病院紹介>情報公開)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ビタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0
先進医療の種類合計	1
扱い患者数の合計(人)	0

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術、肺葉切除術郭清	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	ロボット支援弁形成術(2弁)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	経カテーテル、大動脈弁置換術(経皮的)	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	大動脈瘤切除術(上行及び弓部同時手術)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	内視鏡的十二指腸悪性腫瘍粘膜下層剥離術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 「外保連試案2020」に記載されている技術度Eに該当する手技			
医療技術名	脳動脈瘤頸部クリッピング術(脳底動脈)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2020」に記載されている技術度Eに該当する手技			
医療技術名	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 「外保連試案2020」に記載されている技術度Eに該当する手技			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	64

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	2	56	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4
2	脊髄性筋萎縮症	1	57	下垂体前葉機能低下症	407
3	進行性核上性麻痺	10	58	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	134
4	パーキンソン病	391	59	甲状腺ホルモン不応症	4
5	大脳皮質基底核変性症	2	60	アジソン病	44
6	シャルコー・マリー・トゥース病	3	61	サルコイドーシス	222
7	重症筋無力症	130	62	特発性間質性肺炎	83
8	多発性硬化症/視神経脊髄炎	56	63	肺動脈性肺高血圧症	64
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	15	64	慢性血栓性肺高血圧症	13
10	多系統萎縮症	9	65	リンパ脈管筋腫症	9
11	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	34	66	網膜色素変性症	64
12	もやもや病	85	67	バッド・キアリ症候群	2
13	亜急性硬化性全脳炎	1	68	特発性門脈圧亢進症	3
14	進行性多巣性白質脳症	1	69	原発性胆汁性胆管炎	116
15	特発性基底核石灰化症	2	70	原発性硬化性胆管炎	7
16	全身性アミロイドーシス	9	71	自己免疫性肝炎	6
17	神経線維腫症	18	72	クローン病	84
18	天疱瘡	14	73	潰瘍性大腸炎	600
19	膿疱性乾癬(汎発型)	20	74	好酸球性消化管疾患	2
20	スティーヴンス・ジョンソン症候群	25	75	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
21	中毒性表皮壊死症	5	76	チャージ症候群	1
22	高安動脈炎	44	77	クリオピリン関連周期熱症候群	1
23	巨細胞性動脈炎	27	78	若年性特発性関節炎	48
24	結節性多発動脈炎	25	79	TNF受容体関連周期性症候群	1
25	顕微鏡的多発血管炎	44	80	非典型溶血性尿毒症症候群	2
26	多発血管炎性肉芽腫症	50	81	先天性ミオパチー	4
27	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	45	82	筋ジストロフィー	23
28	悪性関節リウマチ	17	83	脊髄空洞症	9
29	パージャール病	139	84	脊髄髄膜瘤	1
30	原発性抗リン脂質抗体症候群	186	85	遺伝性ジストニア	1
31	全身性エリテマトーデス	665	86	前頭側頭葉変性症	1
32	皮膚筋炎/多発性筋炎	177	87	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1
33	全身性強皮症	319	88	アレキサンダー病	1
34	混合性結合組織病	62	89	片側巨脳症	2
35	シェーグレン症候群	1073	90	ミオクロニー欠伸てんかん	2
36	成人スチル病	33	91	レノックス・ガストー症候群	4
37	再発性多発軟骨炎	4	92	レット症候群	2
38	ベーチェット病	137	93	スタージ・ウェーバー症候群	4
39	特発性拡張型心筋症	35	94	結節性硬化症	6
40	肥大型心筋症	237	95	色素性乾皮症	5
41	拘束型心筋症	1	96	家族性良性慢性天疱瘡	3
42	再生不良性貧血	61	97	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	54
43	自己免疫性溶血性貧血	25	98	特発性後天性全身性無汗症	1
44	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	99	マルファン症候群	18
45	特発性血小板減少性紫斑病	157	100	エーラス・ダンロス症候群	5
46	血栓性血小板減少性紫斑病	8	101	ウィリアムズ症候群	7
47	原発性免疫不全症候群	6	102	アペール症候群	1
48	IgA腎症	205	103	多脾症候群	1
49	多発性嚢胞腎	122	104	無脾症候群	1
50	黄色靭帯骨化症	10	105	プラダー・ウィリ症候群	2
51	後縦靭帯骨化症	50	106	ソトス症候群	3
52	広範脊柱管狭窄症	9	107	ヌーナン症候群	4
53	特発性大腿骨頭壊死症	35	108	アンジェルマン症候群	2
54	下垂体性ADH分泌異常症	2	109	修正大血管転位症	29
55	クッシング病	53	110	完全大血管転位症	27

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	
合計患者数(人)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	単心室症	36			
112	三尖弁閉鎖症	20			
113	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4			
114	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1			
115	ファロー四徴症	95			
116	両大血管右室起始症	27			
117	エプスタイン病	14			
118	アルポート症候群	1			
119	急速進行性糸球体腎炎	97			
120	抗糸球体基底膜腎炎	1			
121	一次性ネフローゼ症候群	250			
122	紫斑病性腎炎	12			
123	間質性膀胱炎(ハンナ型)	26			
124	オスラー病	3			
125	閉塞性細気管支炎	9			
126	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2			
127	副甲状腺機能低下症	545			
128	偽性副甲状腺機能低下症	1			
129	ポルフィリン症	2			
130	家族性地中海熱	12			
131	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6			
132	慢性再発性多発性骨髄炎	3			
133	強直性脊椎炎	82			
134	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2			
135	後天性赤芽球癆	2			
136	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	6			
137	クロンカイト・カナダ症候群	3			
138	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	14			
139	先天性横隔膜ヘルニア	1			
140	胆道閉鎖症	4			
141	遺伝性腓炎	2			
142	IgG4関連疾患	66			
143	黄斑ジストロフィー	4			
144	好酸球性副鼻腔炎	52			
145	進行性ミオクローヌステんかん	10			
146	先天性三尖弁狭窄症	1			
147	先天性僧帽弁狭窄症	1			
148	無虹彩症	3			
149	特発性多中心性キャッスルマン病	12			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	149
合計患者数(人)	8479

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	病棟薬剤業務実施加算2 (HCU,ICU,CCM届出)
歯科外来診療環境体制加算2	データ提出加算(2)
特定機能病院入院基本料	入退院支援加算【加算1】
救急医療管理加算	認知症ケア加算【加算1】
超急性期脳卒中加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
診療録管理体制加算1	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1(15対1)	排尿自立支援加算
急性期看護補助体制加算(25対1)	地域医療体制確保加算
看護職員夜間配置加算(12対1)	地域歯科診療支援病院入院加算
療養環境加算	救命救急入院料3(HCU)
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料4(CCM)
無菌治療室管理加算1,2	特定集中治療室管理料1(ICU)
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料3(ICC)
精神科リエゾンチーム加算	ハイケアユニット入院医療管理料1(IMCU)
摂食障害入院医療管理加算	新生児特定集中治療室管理料1(NICU)
栄養サポートチーム加算	新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)
報告書管理体制加算	小児入院医療管理料1(6E)
医療安全対策加算1 (医療安全対策地域連携加算1)	緩和ケア病棟入院料1(10W)
感染対策向上加算1(指導強化加算)	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
後発医薬品使用体制加算3	
病棟薬剤業務実施加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	ニコチン依存症管理料
外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談体制充実加算
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	がん治療連携計画策定料
糖尿病合併症管理料	外来排尿自立指導料
がん性疼痛緩和指導管理料	ハイリスク妊産婦連携指導料1
がん患者指導管理料イ	ハイリスク妊産婦連携指導料2
がん患者指導管理料ロ	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料ハ	こころの連携指導料(Ⅱ)
がん患者指導管理料ニ	薬剤管理指導料
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料1
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	医療機器安全管理料2
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	医療機器安全管理料(歯科)
糖尿病透析予防指導管理料	歯科治療時医療管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	在宅血液透析指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅酸素療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
腎代替療法指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
一般不妊治療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
二次性骨折予防継続管理料1	遺伝学的検査
二次性骨折予防継続管理料3	染色体検査の注2に規定する基準
地域連携小児夜間・休日診療料2	骨髄微小残存病変量測定
地域連携夜間・休日診療料	BRCA1/2遺伝子検査
院内トリアージ実施料	がんゲノムプロファイリング検査
外来放射線照射診療料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
連携充実加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	心臓MRI撮影加算
検体検査管理加算(I)	乳房MRI撮影加算
検体検査管理加算(IV)	小児鎮静下MRI撮影加算
国際標準検査管理加算	頭部MRI撮影加算
遺伝カウンセリング加算	全身MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	外来化学療法加算1
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	無菌製剤処理料
胎児心エコー法	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
ヘッドアップティルト試験	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
単線維筋電図	運動器リハビリテーション料(I)
神経学的検査	呼吸器リハビリテーション料(I)
補聴器適合検査	がん患者リハビリテーション料
コンタクトレンズ検査料1	歯科口腔リハビリテーション料2
小児食物アレルギー負荷検査	療養生活継続支援加算
内服・点滴誘発試験	認知療法・認知行動療法1
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
CT透視下気管支鏡検査加算	人工腎臓
経気管支凍結生検法	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
画像診断管理加算1	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
画像診断管理加算3	下肢抹消動脈疾患指導管理加算
遠隔画像診断	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
CT撮影及びMRI撮影	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
冠動脈CT撮影加算	口腔粘膜処置
血流予備量比コンピューター断層撮影	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
外傷全身CT加算	有床義歯修理及び有床義歯内面的合法の歯科技工加算1及び2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
椎間板内酵素注入療法	胸腔鏡下弁形成術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	胸腔鏡下弁置換術
角結膜悪性腫瘍切除手術	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	経皮的僧帽弁クリップ術
羊膜移植術	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	経皮的中隔心筋焼灼術
緑内障手術(濾過腔再建術(needle 法))	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
網膜再建術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)、乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	補助人工心臓

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
経皮的下肢動脈形成術	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	輸血管理料Ⅰ
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	輸血適正使用加算
腹腔鏡下肝切除術	貯血式自己血輸血管理体制加算
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	自己生体組織接着剤作成術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	同種クリオプレシピテート作製術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
生体腎移植術	レーザー機器加算
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	麻酔管理料(Ⅰ)
人工尿道括約筋植込・置換術	麻酔管理料(Ⅱ)
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	周術期薬剤管理加算
精巣内精子採取術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下仙骨陰固定術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下仙骨陰固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	体外照射呼吸性移動対策加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
体外式膜型人工肺管理料	定位放射線治療
手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
病理診断管理加算2	口腔病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算	クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年9回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	12
	剖検率(%)	2.3

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗毒素製剤の高品質化、及び抗毒素製剤を用いた治療体制に資する研究	一二三 亨	救急部	6,500,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
日本人BRCA未発症変異保持者に対する乳癌リスク低減手法の開発研究	山内 英子	乳腺外科	1,690,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築	山内 英子	乳腺外科	2,050,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
患者層別化マーカー探索技術の開発／がん免疫モニタリングによる患者層別化を行う基盤技術の開発	山内 英子	乳腺外科	1,100,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
難治性呼吸器腫瘍等の全ゲノム配列データおよび臨床情報等の収集と解析に関する研究	山内 英子	乳腺外科	2,600,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
静脈奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性を評価する医師主導治験	野崎 太希	放射線科	565,500	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
がん遺伝的素因を有する小児・AYA世代へのフォローアップ体制確立を目指したLi-Fraumeni症候群におけるがんサーベイランスプログラムの実行可能性と新規バイオマーカー探索に関する研究	野崎 太希	放射線科	260,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	長谷川 大輔	小児科	130,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立	長谷川 大輔	小児科	520,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児急性リンパ性白血病に対する標準的治療法の確立：フォローアップ課題	長谷川 大輔	小児科	1,300,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
心筋梗塞における時空間的シングルセル解析による病態解明と治療法開発 Spatio-temporal single-cell analysis of myocardial infarction for pathogenesis understanding and drug development	水野 篤	循環器内科	650,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
小児および若年成人のEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症 (EBV-HLH)に対する新規標準治療の確立	小野 林太郎	小児科	130,000	委	日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲノム情報を活用した遺伝性腫瘍の先制的医療提供体制の整備に関する研究	山内 英子	乳腺外科	500,000	補	厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	山口 賢一	アレルギー膠原病科	400,000	補	厚生労働省
AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究	小澤 美和	小児科	500,000	補	厚生労働省
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	松藤 凡	小児外科	200,000	補	厚生労働省
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野崎 太希	放射線科	300,000	補	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究	長谷川 大輔	小児科	200,000	補	厚生労働省
小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して	北野 敦子	腫瘍内科	500,000	補	厚生労働省
出生前検査を検討する妊婦への遠隔遺伝カウンセリング:テレジェネティクスの実践評価	深野 智華 (阪本智華)	遺伝診療センター	650,000	補	文部科学省
サイトカイン初期応答に基づく新規川崎病再燃予測システムの確立	小野 林太郎	小児科	1,300,000	補	文部科学省
新生児の呼吸障害治療の新戦略のために～胃食道逆流現象からの新しいアプローチ	平田 倫生	小児科	260,000	補	文部科学省
冠動脈多枝病変の治療法選択における定量的冠血流比を用いたリスク評価の実用性の検討	浅野 拓	循環器内科	130,000	補	文部科学省
検査前説明におけるPCおよび人型ロボットを使用した検査前説明の有効性の比較	鈴木 陽子	4W・心血管センター	330,000	補	文部科学省
ZTEシーケンスを用いたCT情報を包含するAll in one MRIの開発	野崎 太希	放射線科	1,430,000	補	文部科学省
原発乳癌リンパ節転移陽性患者における術前化学療法後腋窩郭清省略の多施設共同研究	林 直輝	乳腺外科	2,470,000	補	文部科学省
SCASH:進行非小細胞肺癌患者への症状クラスター高度サポート開発と評価	西村 直樹	呼吸器内科	130,000	補	文部科学省
本邦における院外心停止患者に対するECPRに関する多施設後向き観察研究	一二三 亨	救急部	52,000	補	文部科学省
思春期若年成人世代の血液腫瘍患者への情報提供の在り方と支援に関する研究	小澤 美和	小児科	39,000	補	文部科学省
肝移植術後早期回復におけるHMB投与の有用性と新規メカニズムの解明	海道 利実	消化器・一般外科	32,500	補	文部科学省
カテーテル関連血流感染症予防に対するオラネキシジングルコン酸塩の有効性の検討	一二三 亨	救急部	26,000	補	文部科学省
加齢黄斑変性に対する脂質代謝制御による新規治療法開発	小澤 洋子	眼科	1,000,000	補	助成金

計 32

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Matsuo T, Taki F, Kobayashi D, et al.	感染症科	Health care worker burnout after the first wave of the coronavirus disease 2019 (COVID-19) pandemic in Japan.	J Occup Health. 2021 Jan; 63(1): e12247.(オン ライン)	Original Article
2	Nakamura K, Okamoto T, Shiratori Y, et al.	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided coil deployment with sclerotherapy for gastric varices.	Clin J Gastroenterol. 2021 Feb; 14(1): 76- 83.	Case Report
3	Anan G, Hattori K, Hatakeyama S, et al.	泌尿器科	Efficacy of one-surgeon basketing technique for stone extraction during flexible ureteroscopy for urolithiasis.	Arab J Urol. 2021 Feb; 19(4): 447-453.	Original Article
4	Tashiro J, Fujii M, Masaki Y, et al.	消化器・一般外 科	Surgical outcomes of hybrid hand-assisted laparoscopic pelvic exenteration for locally advanced rectal cancer: Initial experience.	Asian J Endosc Surg. 2021 Apr; 14(2): 213- 222.	Original Article
5	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Ileocolic intussusception caused by mass-forming fibro- granulation from healed ulcer masquerading as small bowel lipoma.	Clin J Gastroenterol. 2021 Apr; 14(2): 522- 530.	Case Report
6	Yoshida T, Nagao T, Ozawa R, et al.	産婦人科	Benign metastasising leiomyoma with endometrial carcinoma, with a differential diagnosis of metastatic lung cancer.	BMJ Case Rep. 2021 Apr; 14(4): e240922. (オンライン)	Case Report
7	Nagao T, Kuriyama E, Sato A, et al.	女性総合診療 部	Velamentous cord insertion ruptured during labour leading to acute fetal blood loss.	BMJ Case Rep. 2021 Apr; 14(4): e240245. (オンライン)	Case Report
8	Matsuo T, Mori N, Sakurai A, et al.	感染症科	Effectiveness of daptomycin against infective endocarditis caused by highly penicillin- resistant viridans group streptococci.	IDCases. 2021 Apr; 24: e011113.(オンライ ン)	Case Report
9	Yamamoto K, Ikeya T, Shiratori Y.	消化器内科	Endoscopic unroofing and mucosal resection for a large colonic lipoma with intussusception: an effective hybrid technique.	VideoGIE. 2021 Apr; 6(4): 190-192.	Case Report
10	Niwa K.	心血管セン ター	Metabolic syndrome and coronary artery disease in adults with congenital heart disease.	Cardiovasc Diagn Ther. 2021 Apr; 11(2): 563-576.	Review

11	Tasaki A.	整形外科	Clinical Characteristics and Surgical Outcomes for Collision Athletes with Traumatic Posterior Instability.	J Nippon Med Sch. 2021 Apr; 88(2): 133-137.	Case Report
12	Shiratori Y, Yoshimoto T, Ikeya T.	消化器内科	Switching from the pocket-creation method to double clip and rubber-band traction in colonic endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy. 2021 May; 53(5): E166-E168.	Others
13	Iwasaki T, Kunitani Y, Funakoshi H.	救急部	Extrapleural hematoma that was not detectable on initial CT in a patient with pneumonia.	Am J Emerg Med. 2021 May; 43: 288.e1-288.e3.	Case Report
14	Matsuo T, Takahashi O, Kitaoka K, et al.	感染症科	Resident Burnout and Work Environment.	Intern Med. 2021 May; 60(9): 1369-1376.	Original Article
15	Mizuno A, Miyashita M, Ohde S, et al.	循環器内科	Differences in aggressive treatments during the actively dying phase in patients with cancer and heart disease: an exploratory study using the sampling dataset of the National Database of Health Insurance Claims.	Heart Vessels. 2021 May; 36(5): 724-730.	Original Article
16	Furukawa K, Mitsutake H, Aso R, et al.	感染症科	Usefulness of a newly developed high-speed polymerase chain reaction analysis system for the diagnosis of Clostridioides difficile infection.	J Infect Chemother. 2021 May; 27(5): 715-721.	Original Article
17	Kamo M, Nozaki T, Horiuchi S, et al.	放射線科	There are no three physiological narrowings in the upper urinary tract: a new concept of the retroperitoneal anatomy around the ureter.	Jpn J Radiol. 2021 May; 39(5): 407-413.	Review
18	Saito M, Niga S, Nihei T, et al.	整形外科	The cleft sign may be an independent factor of magnetic resonance imaging findings associated with a delayed return-to-play time in athletes with groin pain.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2021 May; 29(5): 1474-1482.	Original Article
19	Yanaoka H, Nagafuchi Y, Hanata N, et al.	アレルギー膠原病科	Identifying the most influential gene expression profile in distinguishing ANCA-associated vasculitis from healthy controls.	J Autoimmun. 2021 May; 119: 102617.	Original Article
20	Fukui S, Suda M, Furukawa S, et al.	リウマチ膠原病センター	Performance of a pre-administration infection screening questionnaire in patients with rheumatoid arthritis administered biological disease-modifying antirheumatic drugs.	Int J Rheum Dis. 2021 May; 24(5): 647-653.	Original Article

21	Hifumi T, Inoue A, Takiguchi T, et al.	救急部	Variability of extracorporeal cardiopulmonary resuscitation practice in patients with out-of-hospital cardiac arrest from the emergency department to intensive care unit in Japan.	Acute Med Surg. 2021 May; 8(1): e647. (オンライン)	Original Article
22	Nishizawa T, Kobayashi D, Uematsu H, et al.	一般内科	Ultrasonographic 'whirlpool sign' in testicular torsion.	BMJ Case Rep. 2021 May; 14(5): e241638. (オンライン)	Case Report
23	Ryu B, Yamaguchi K, Ishikawa T, et al.	脳神経外科	Maximum Nidus Depth as a Risk Factor of Surgical Morbidity in Eloquent Brain Arteriovenous Malformations.	Acta Neurochir Suppl. 2021 May; 132: 91-100.	Original Article
24	Nishizawa T, Kawakami A, Taguchi T, et al.	一般内科	Transient global amnesia with bilateral hippocampal lesions during the COVID-19 global outbreak.	J Gen Fam Med. 2021 May; 22(3): 154-155.	Case Report
25	Yamasaki M, Abe K, Mitsuishi A, et al.	心臓血管外科	Giant biatrial myxoma in an atrial septal defect.	J Cardiol Cases. 2021 May; 23(5): 253-255.	Case Report
26	Okamoto T, Nakamura K, Ikeya T, et al.	消化器内科	Endoscopic fenestration with EUS guidance for esophageal duplication cyst.	VideoGIE. 2021 May; 6(5): 211-214.	Case Report
27	Okamoto T, Suzuki H, Fukuda K.	消化器内科	Simultaneous gastric cancer and breast cancer metastases to the stomach with lymph node collision tumor: a case report.	BMC Gastroenterol. 2021 May; 21(1): 240. (オンライン)	Case Report
28	Tasaki A, Morita W, Nozaki T, et al.	整形外科	Arthroscopic Bankart Repair and Open Bristow Procedure in the Treatment of Anterior Shoulder Instability With Osseous Glenoid Lesions in Collision Athletes.	Orthop J Sports Med. 2021 May; 9(5): 23259671211008274. (オンライン)	Original Article
29	Hifumi T, Nakamura K, Kuroda Y, et al.	救急部	High early phase hemoglobin level is associated with favorable neurological outcome in patients with severe traumatic brain injury.	Am J Emerg Med. 2021 Jun; 44: 373-377.	Original Article
30	Ryu B, Sato S, Mochizuki T, et al.	神経血管内治療科	Spinal arteriovenous fistula located in the filum terminale externa: A case report and review of the literature.	Interv Neuroradiol. 2021 Jun; 27(3): 451-455.	Review
31	Ryu B, Sato S, Mochizuki T, et al.	神経血管内治療科	Relative signal intensity on time-of-flight magnetic resonance angiography as a novel indicator of aggressive presentation of intracranial dural arteriovenous fistulas.	J Cereb Blood Flow Metab. 2021 Jun; 47(6): 1428-1436.	Original Article
32	So C, Jinta T.	呼吸器センター	Pulmonary alveolar microlithiasis.	QJM. 2021 Jun; 114(6): 415.	Case Report

33	Banno A, Kanazawa T, Shimizu K, et al.	麻酔科	Higher preoperative Qp/Qs ratio is associated with lower preoperative regional cerebral oxygen saturation in children with ventricular septal defect.	J Anesth. 2021 Jun; 35(3): 442-445.	Original Article
34	Tomita S, Kuga T, Osugi Y, et al.	一般内科	Factors associated with the accomplishment of home death among patients receiving physician-led home healthcare.	Geriatr Gerontol Int. 2021 Jun; 21(6): 525-531.	Original Article
35	Ro S, Imai R, Kitamura A, et al.	呼吸器センサー	Ultrasonic humidifier lung as a mimic of COVID-19.	Respirol Case Rep. 2021 Jun; 9(6): e00761. (オンライン)	Case Report
36	Morimoto M, Matsuo T, Mori N.	感染症科	Management of Porcelain Gallbladder, Its Risk Factors, and Complications: A Review.	Diagnostics (Basel). 2021 Jun; 11(6): 1073. (オンライン)	Review
37	Okamoto T, Takasu A, Yoshimoto T, et al.	消化器内科	Digital compression for hemostasis in acute hemorrhagic rectal ulcer: a report of 4 cases and review of the literature.	Clin J Gastroenterol. 2021 Jun; 14(3): 796-804.	Review
38	Ro S, Nishimura N, Imai R, et al.	呼吸器内科	Identification of patients with COVID-19 who are optimal for methylprednisolone pulse therapy.	Multidiscip Respir Med. 2021 Jun; 16(1): 781.	Others
39	Shimbo M, Endo F, Tominaga K, et al.	泌尿器科	Optimizing first trocar access for robot-assisted radical prostatectomy: Optical trocar access through the upper abdominal quadrant using the Kii Fios First Entry trocar.	Asian J Endosc Surg. 2021 Jul; 14(3): 443-450.	Original Article
40	Yamamoto K, Ikeya T, Okuyama S, et al.	消化器内科	The association between non-alcoholic fatty liver disease (with or without metabolic syndrome) and extrahepatic cancer development.	J Gastroenterol Hepatol. 2021 Jul; 36(7): 1971-1978.	Original Article
41	Shiina Y, Kawakubo M, Inai K, et al.	心血管センサー	Dual VENC 4D flow magnetic resonance imaging demonstrates arterial-pulmonary collaterals in an adult with tetralogy of Fallot.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2021 Jul; 22(7): e95.	Others
42	Shimizu MS, Matsuo T, Mori N.	感染症科	A Rare Manifestation Associated With a Urinary Tract Infection in a Patient With Ulcerative Colitis.	Gastroenterology. 2021 Jul; 161(1): e14-e15.	Case Report

43	Ochi T, Tsunoda H, Matsuda N, et al.	乳腺外科	Accuracy of morphologic change measurements by ultrasound in predicting pathological response to neoadjuvant chemotherapy in triple-negative and HER2-positive breast cancer.	Breast Cancer. 2021 Jul; 28(4): 838-847.	Original Article
44	Kyono Y, Endo F, Shimbo M, et al.	泌尿器科	Positive urine culture under indwelling urethral catheterization is a risk factor for febrile complications after holmium laser enucleation of the prostate (HoLEP).	Low Urin Tract Symptoms. 2021 Jul; 13(3): 377-382.	Original Article
45	Ono R, Ueno H, Yoshida K, et al.	小児科	Clonal evidence for the development of neuroblastoma with extensive copy-neutral loss of heterozygosity arising in a mature teratoma.	Cancer Sci. 2021 Jul; 112(7): 2921-2927.	Case Report
46	Shiratori Y, Kanomata N, Ikeya T.	消化器内科	Pocket-creation method in endoscopic submucosal dissection for a gastric carcinoma located on the pyloric ring.	VideoGIE. 2021 Jul; 6(6): 254-256.	Case Report
47	Fukui S, Ikeda Y, Kataoka Y, et al.	リウマチ膠原病センター	Clinical significance of monitoring hypothyroidism in patients with autoimmune rheumatic disease: a retrospective cohort study.	Sci Rep. 2021 Jul; 11(1): 13851. (オンライン)	Original Article
48	Mizuno A, Rewley J, Kishi T, et al.	循環器内科	Relationship Between Official Twitter Ambassadors and the Number of Retweets in the Annual Congress- "Tweet the Meeting".	Circ Rep. 2021 Jul; 3(7): 414-418.	Others
49	Nakamura K, Honda R, Soeda S, et al.	眼科	Factors associated with achieving intraocular pressure lower than 15 mmHg by Trabectome surgery in primary open-angle glaucoma.	Sci Rep. 2021 Jul; 11(1): 14308. (オンライン)	Original Article
50	Nishino T, Narimoto K, Tominaga K, et al.	泌尿器科	A large adrenocortical adenoma surrounded with a renal arteriovenous malformation.	IJU Case Rep. 2021 Jul; 4(4): 224-227.	Case Report
51	Okamoto T, Suzuki H, Fukuda K.	消化器内科	Intraoperative Endoscopy in Transient Adult Jejunojejunal Intussusception.	Case Rep Gastrointest Med. 2021 Jul; 2021: 3718089.	Case Report
52	Ishikawa K, Furukawa K.	感染症科	Staphylococcus Aureus Bacteremia Due to Central Venous Catheter Infection: A Clinical Comparison of Infections Caused by Methicillin-Resistant and Methicillin-Susceptible Strains.	Cureus. 2021 Jul; 13(7): e16607. (オンライン)	Original Article

53	Yamamoto K, Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Asymptomatic Eosinophilic Infiltration with Endoscopic and Histological Findings Consistent with Eosinophilic Gastritis.	Case Rep Gastroenterol. 2021 Jul; 15(2): 652-656.	Case Report
54	Kobayashi N, Noguchi T, Kobayashi D, et al.	放射線科	Safety and Efficacy of Percutaneous Vertebroplasty for Osteoporotic Vertebral Compression Fractures: A Multicenter Retrospective Study in Japan.	Interv Radiol (Higashimatsuyama). 2021 Jul; 6(2): 21-28.	Original Article
55	Maie A, Kanekuni S, Yonekura Y, et al.	予防医療センター	Evaluating short versions of the European Health Literacy Survey Questionnaire(HLS-EU-Q47) for health checkups	Health Evaluation and Promotion総合健診. 2021 Jul; 48(4): 351-358.	Original Article
56	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Bowel Perforation by Intrauterine Device.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2021 Aug; 19(8): e79.	Case Report
57	Yoshiyasu N, Kojima F, Hayashi K, et al.	呼吸器外科	Radiomics technology for identifying early-stage lung adenocarcinomas suitable for sublobar resection.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Aug; 162(2): 477-485.e1.	Original Article
58	Hifumi T, Inoue A, Arimoto H, et al.	救急部	The association between neuromuscular blockade use during target temperature management and neurological outcomes.	Am J Emerg Med. 2021 Aug; 46: 289-294.	Original Article
59	Hashimoto Y, Hayashi A, Teng L, et al.	薬剤部	Real-World Cost-Effectiveness of Palliative Care for Terminal Cancer Patients in a Japanese General Hospital.	J Palliat Med. 2021 Aug; 24(9): 1284-1290.	Original Article
60	Yamashita Y, Tsunoda H, Nagura N, et al.	乳腺外科	Long-Term Oncologic Safety of Nipple-Sparing Mastectomy With Immediate Reconstruction.	Clin Breast Cancer. 2021 Aug; 21(4): 352-359.	Original Article
61	Okamoto T, Suzuki H, Fukuda K.	消化器内科	Gastric linitis plastica due to signet-ring cell carcinoma with Krukenberg tumors diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.	Clin J Gastroenterol. 2021 Aug; 14(4): 994-1003.	Review
62	Shiratori Y, Fukuda K.	消化器内科	Bleeding Colonic Worm-Like Polyps.	Am J Gastroenterol. 2021 Aug; 116(8): 1580.	Case Report
63	Yoshimoto T, Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Cronkhite-Canada Syndrome: A Rare COVID-19 Mimicker.	Am J Gastroenterol. 2021 Aug; 116(8): 1765.	Case Report
64	Nakai T, Kitada A, Fukui S, et al.	リウマチ膠原病センター	Risk of adverse pregnancy outcomes in Japanese systemic lupus erythematosus patients with prior severe organ manifestations: A single-center retrospective analysis.	Lupus. 2021 Aug; 30(9): 1415-1426.	Original Article

65	Yamamoto K, Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Endoscopic removal of a spoon from the stomach using a 2-channel endoscope.	VideoGIE. 2021 Aug; 6(8): 347-349.	Case Report
66	Betsuyaku T, Nishizawa T, Higuchi N, et al.	研修医	Trousseau's syndrome associated with an ovarian borderline tumour.	BMJ Case Rep. 2021 Aug; 14(8): e244249. (オンライン)	Case Report
67	Ryu B, Sato S, Inoue T, et al.	神経血管内治療科	Simmons Angled microguidewire Insertion to the Target (SAINT) technique in neuroendovascular therapy.	J Neuroradiol. 2021 Sep; 48(5): 400-403.	Others
68	Saito M, Niga S, Suzuki K, et al.	整形外科	Prognosis of Incomplete Avulsion of the Proximal Hamstring Tendon Is Determined by the Avulsion Location of the Proximal Hamstring Tendon Footprint.	Clin J Sport Med. 2021 Sep; 31(5): e251-e257. (オンライン)	Original Article
69	Kaneshita S, Suda M, Okada M.	リウマチ膠原病センター	Distinctive arterial collaterals caused by aortic occlusion in a patient with antiphospholipid syndrome.	Korean J Intern Med. 2021 Sep; 36(5): 1258-1259.	Case Report
70	Ishimaru H, Tsuda Y, Kage H, et al.	薬剤部	Development of a simple compatibility inspection method using pressure in a BD PhaSeal(TM) system and hazardous drug vials.	J Oncol Pharm Pract. 2021 Sep; 27(6): 1321-1327.	Original Article
71	Shiina Y, Inai K, Ohashi R, et al.	心血管センター	Potential of Liver T(1) Mapping for the Detection of Fontan-associated Liver Disease in Adults.	Magn Reson Med Sci. 2021 Sep; 20(3): 295-302.	Original Article
72	Shiratori Y, Ikeya T, Fukuda K.	消化器内科	Introducing the newly developed SB Knife Jr 2: enhancing creative endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy. 2021 Sep; 53(9): E352-E354.	Others
73	Okamoto T, Nakamura K, Yamamoto K, et al.	消化器内科	Safety and Effectiveness of Endoscopic Band Ligation for Colonic Diverticular Bleeding in Elderly Patients.	Digestion. 2021 Sep; 102(5): 760-766.	Original Article
74	Matsuo T, Nakaoka H, Mori N, et al.	感染症科	Disseminated nocardiosis due to Nocardia terpenica.	J Infect Chemother. 2021 Sep; 27(9): 1365-1368.	Case Report
75	Imai R, Ro S, Tomishima Y, et al.	呼吸器センター	Steroid resistance and rebound phenomena in patients with COVID-19.	Respir Investig. 2021 Sep; 59(5): 608-613.	Original Article
76	Tamaki R, Yamasaki M, Nishi H, et al.	心臓血管外科	Emergency aortic valve replacement complicated by unmanaged pheochromocytoma.	J Card Surg. 2021 Sep; 36(9): 3425-3428.	Case Report

77	Shima S, Sato S, Motizuki T, et al.	脳神経外科	Endovascular treatment for ruptured cervical anterior spinal artery aneurysm caused by occlusive disease of bilateral vertebral arteries: A case report and literature review.	Clin Neurol Neurosurg. 2021 Sep; 208: 106862.	Review
78	Matsuo T, Saito A, Kawai F, et al.	感染症科	Use of PCR in the diagnosis of pericardial amebiasis: a case report and systematic review of the literature.	BMC Infect Dis. 2021 Sep; 21(1): 960. (オンライン)	Review
79	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Endosonographic diagnosis of choledochocoele.	Endosc Int Open. 2021 Sep; 9(10): E1579–E1580.	Case Report
80	Okamoto T, Nakamura K, Fukuda K.	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided transluminal drainage for aseptic splenic abscess.	Endosc Int Open. 2021 Sep; 9(10): E1581–E1582.	Case Report
81	Nakamura T, Ishikawa K, Matsuo T, et al.	感染症科	Enterococcus hirae bacteremia associated with acute pyelonephritis in a patient with alcoholic cirrhosis: a case report and literature review.	BMC Infect Dis. 2021 Sep; 21(1): 999. (オンライン)	Review
82	Mori N, Szvalb AD, Adachi JA, et al.	感染症科	Clinical presentation and outcomes of non-typhoidal Salmonella infections in patients with cancer.	BMC Infect Dis. 2021 Sep; 21(1): 1021. (オンライン)	Original Article
83	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Acute Pancreatitis after Biliary and Pancreatic Stent Removal with a Forward-Viewing Endoscope.	Case Rep Gastroenterol. 2021 Sep; 15(3): 785–790.	Case Report
84	Yamasaki M, Yoshino H, Kunihara T, et al.	心臓血管外科	Risk analysis for early mortality in emergency acute type A aortic dissection surgery: experience of Tokyo Acute Aortic Super-network.	Eur J Cardiothorac Surg. 2021 Oct; 60(4): 957–964.	Original Article
85	Shiratori Y, Kanomata N, Takagi K, et al.	消化器内科	Esophageal basaloid squamous cell carcinoma presenting as a subepithelial lesion.	Clin J Gastroenterol. 2021 Oct; 14(5): 1324–1328.	Case Report
86	Fujimaru T, Shuo T, Nagahama M, et al.	腎臓内科	Assessing urine ammonium concentration by urine osmolal gap in chronic kidney disease.	Nephrology (Carlton). 2021 Oct; 26(10): 809–813.	Others
87	Mori N, Tada T, Oshiro S, et al.	感染症科	A transferrable IncL/M plasmid harboring a gene encoding IMP-1 metallo- β -lactamase in clinical isolates of Enterobacteriaceae.	BMC Infect Dis. 2021 Oct; 21(1): 1061. (オンライン)	Original Article
88	Nakamura T, Tani N, Suzuki S.	呼吸器センター	Pneumopericardium in a patient with idiopathic pulmonary fibrosis and lung cancer undergoing chemotherapy.	BMJ Case Rep. 2021 Oct; 14(10): e242428. (オンライン)	Case Report

89	Kanie T, Mizuno A, Takaoka Y, et al.	循環器内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitors, glucagon-like peptide 1 receptor agonists and sodium-glucose co-transporter-2 inhibitors for people with cardiovascular disease: a network meta-analysis.	Cochrane Database Syst Rev. 2021 Oct; 10: CD013650. (オンライン)	Review
90	Shiratori Y, Yoshimoto T, Yamamoto K.	消化器内科	Esophageal variceal treatment using a novel Doppler probe method.	Endoscopy. 2021 Nov; 53(11): E419-E420.	Case Report
91	Yamamoto K, Ikeya T, Okuyama S, et al.	消化器内科	Association between the Frequency of Daily Toothbrushing and Development of Nonalcoholic Fatty Liver Disease.	Dig Dis. 2021 Nov; 39(6): 646-652.	Original Article
92	Kitamura A, Okafuji K, Imai R, et al.	呼吸器センター	Reproducibility of peripheral branches in virtual bronchoscopic navigation using VINCENT and LungPoint software for peripheral lung lesions.	Respir Investig. 2021 Nov; 59(6): 772-776.	Original Article
93	Nishino T, Shimbo M, Endo F, et al.	泌尿器科	Prostate cancer featuring a unique progression pattern: A case of prominent direct perineal invasion without definite metastasis.	Urol Case Rep. 2021 Nov; 39: 101779.	Case Report
94	Omata F, Deshpande GA, Suzuki H, et al.	消化器内科	Long-term cumulative incidence of metachronous advanced colorectal neoplasia after colonoscopy and a novel risk factor: a cohort study.	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2021 Nov; 33(11): 1341-1347.	Original Article
95	Nishizawa T, Ishikawa K, Matsuo T, et al.	一般内科	Atypical Ramsay Hunt syndrome (zoster sine herpete) with otitis media.	J Gen Fam Med. 2021 Nov; 22(6): 344-346.	Case Report
96	Okamoto T, Nakamura K, Takasu A, et al.	消化器内科	EUS-guided pancreatic duct drainage with rendezvous technique for post-Whipple pancreatic duct stone.	VideoGIE. 2021 Nov; 6(11): 512-515.	Case Report
97	Eguchi S, Ono R, Sato T, et al.	小児科	Hereditary paraganglioma presenting with atypical symptoms: Case report.	Medicine (Baltimore). 2021 Nov; 100(46): e27888. (オンライン)	Case Report
98	Okamoto T, Arashiyama M, Nakamura K, et al.	消化器内科	Clinical outcomes in acute pancreatitis with relative bradycardia at fever onset.	Medicine (Baltimore). 2021 Nov; 100(46): e27901. (オンライン)	Original Article
99	Okamoto T, Suzuki H, Fukuda K.	消化器内科	Clinical and endoscopic characteristics of acute esophageal necrosis and severe reflux esophagitis.	Medicine (Baltimore). 2021 Nov; 100(44): e27672. (オンライン)	Original Article

100	Shiina Y, Inai K, Nagao M.	心血管センター	Non-physiological Aortic Flow and Aortopathy in Adult Patients with Transposition of the Great Arteries after the Jatene Procedure: A Pilot Study Using Echo Planar 4D Flow MRI.	Magn Reson Med Sci. 2021 Dec; 20(4): 439-449.	Original Article
101	Fukui S, Kawaai S, Nakai T, et al.	リウマチ膠原病センター	Effectiveness and safety of mizoribine for the treatment of IgG4-related disease: a retrospective cohort study.	Rheumatology (Oxford). 2021 Dec; 60(12): 5697-5704.	Original Article
102	Niimi Y, Sato S, Ryu B, et al.	神経血管内治療科	Unusual pediatric epidural arteriovenous fistula with venous ectasia presented with spontaneous spinal epidural hematoma: Case report.	Interv Neuroradiol. 2021 Dec; 27(6): 763-769.	Case Report
103	Takahashi Y, Morisawa T, Okamoto H, et al.	リハビリテーション科	Prevalence and predictors of hospital-acquired functional decline in patients with sepsis admitted to the intensive care unit.	Int J Rehabil Res. 2021 Dec; 44(4): 307-313.	Original Article
104	Yamauchi R, Mizuno N, Itazawa T, et al.	放射線腫瘍科	Assessment of visual feedback system for reproducibility of voluntary deep inspiration breath hold in left-sided breast radiotherapy.	J Med Imaging Radiat Sci. 2021 Dec; 52(4): 544-551.	Original Article
105	Suzuki T, Ishikawa K, Matsuo T, et al.	循環器内科	Pacemaker infection and endocarditis due to Parvimonas micra: A case report and systematic review.	Anaerobe. 2021 Dec; 72: 102459.	Review
106	Imai R, Nishimura N, Takahashi O, et al.	呼吸器センター	High-resolution computed tomography for the prediction of mortality in acute respiratory distress syndrome: A retrospective cohort study.	Health Sci Rep. 2021 Dec; 4(4): e418. (オンライン)	Original Article
107	Daida A, Yokoyama M, Yamamoto K, et al.	小児科	Eyelid myoclonia with absences related to epileptic negative myoclonus.	Epileptic Disord. 2021 Dec; 23(6): 917-921.	Case Report
108	Nozaki T, Migita M, Niimi Y, et al.	放射線科	PELVIS and CM-AVM syndromes: Vascular anomalies that require imaging studies.	Pediatr Int. 2021 Dec; 63(12): 1546-1547.	Case Report
109	Yokosuka R, Imai R, Ro S, et al.	一般内科	Pectoralis Muscle Mass on Chest CT at Admission Predicts Prognosis in Patients with Pneumonia.	Can Respir J. 2021 Dec; 2021: 3396950. (オンライン)	Original Article
110	Imai R, Mizuno A, Miyashita M, et al.	呼吸器センター	Bereaved Family Members' Perceived Care at the End of Life for Patients with Noncancerous Respiratory Diseases.	Palliat Med Rep. 2021 Dec; 2(1): 265-271.	Original Article

111	Banno A, Hifumi T, Takahashi Y, et al.	麻酔科	One-Year Outcomes of Postintensive Care Syndrome in Critically Ill Coronavirus Disease 2019 Patients: A Single Institutional Study.	Crit Care Explor. 2021 Dec; 3(12): e0595. (オンライン)	Original Article
112	Kawamori J, Itazawa T, Fukushima S, et al.	放射線腫瘍科	Effect of Heparinoid Moisturizer on Quality of Life in Patients with Acute Radiation Skin Damage Following Hypofractionated Radiation Therapy After Breast-Conserving Surgery: A Randomized Controlled Study.	Breast Cancer (Dove Med Press). 2021 Dec; 13: 743-753.	Original Article
113	Mushiga Y, Komoto T, Nagai N, et al.	眼科	Effects of intraocular treatments for Epstein-Barr virus (EBV) retinitis: A case report.	Medicine (Baltimore). 2021 Dec; 100(48): e28101. (オンライン)	Case Report
114	Aoki T, Soh M, Hifumi T, et al.	救急部	A Case of Stanford Type A Aortic Dissection Complaining Only of Headache With a History of Migraine.	Cureus. 2021 Dec; 13(12): e20716. (オンライン)	Case Report
115	Minowa Y, Ohkoshi K, Ozawa Y.	眼科	Subthreshold Laser Treatment for Serous Retinal Detachment Associated with Tilted Disc Syndrome.	Case Rep Ophthalmol. 2021 Dec; 12(3): 978-986.	Case Report
116	Okamoto T, Yamamoto K, Kanomata N.	消化器内科	Metastatic Rectal Linitis Plastica From Bladder Cancer.	Am J Gastroenterol. 2021 Dec; 116(12): 2324.	Case Report
117	Shima S, Sato S, Yoshida K, et al.	脳神経外科	Successful endovascular recanalization of acute accessory middle cerebral artery occlusion; A case report and literature review	Interdisciplinary Neurosurgery. 2021 Dec; 6: 101351. (オンライン)	Review
118	Ishikawa K, Matsuo T, Nakamura T, et al.	感染症科	Testicular infarction as a rare complication of pyogenic epididymo-orchitis due to Pseudomonas aeruginosa: A case report and systematic literature review.	IDCases. 2021; 26: e01258. (オンライン)	Review
119	Hirano K, Shimbo T, Komatsu Y, et al.	腎臓内科	Frequency of tooth brushing as a predictive factor for future kidney function decline.	J Nephrol. 2022 Jan; 35(1): 191-199.	Original Article
120	Ryu B, Sato S, Takase M, et al.	神経血管内治療科	Diagnostic accuracy of three-dimensional-rotational angiography and heavily T2-weighted volumetric magnetic resonance fusion imaging for the diagnosis of spinal arteriovenous shunts.	J Neurointerv Surg. 2022 Jan; 14(1): 95-101.	Original Article
121	Shimada G, Hirose S, Matsubara T, et al.	ヘルニアセンター	Indocyanine green fluorescence-guided laparoscopic removal of infected mesh with chronic sinus formation after inguinal mesh plug repair.	Asian J Endosc Surg. 2022 Jan; 15(1): 225-229.	Case Report

122	Shiratori Y, Niikura R, Ishii N, et al.	呼吸器内科	Vonoprazan versus proton pump inhibitors for postendoscopic submucosal dissection bleeding in the stomach: a multicenter population-based comparative study.	Gastrointest Endosc. 2022 Jan; 95(1): 72-79.e3.	Original Article
123	Kitamura A, Ishii K, Okafuji K, et al.	呼吸器内科	Epidermal growth factor receptor (EGFR) mutation testing is useful for primary lung cancer diagnosis and appropriate surgical resection: A case series.	Respir Investig. 2022 Jan; 60(1): 171-175.	Case Report
124	Kuroko Y, Yoshihara H, Hosoya Y, et al.	小児科	Intrathecal therapy in acute lymphoblastic leukemia case with spinal deformity.	Pediatr Int. 2022 Jan; 64(1): e14845.	Case Report
125	Yamada D, Ohde S, Imai R, et al.	放射線科	Visual classification of three computed tomography lung patterns to predict prognosis of COVID-19: a retrospective study.	BMC Pulm Med. 2022 Jan; 22(1): 1. (オンライン)	Original Article
126	Nishizawa T, Uematsu H.	一般内科	Transient perivascular inflammation of the carotid artery syndrome.	BMJ Case Rep. 2022 Jan; 15(1): e248637. (オンライン)	Case Report
127	Kayama M, Aoki Y, Matsuo T, et al.	訪問看護ステーション	Concerns and desires of healthcare workers caring for patients with COVID-19 in April and July 2020 in Japan: a qualitative study of open-ended survey comments.	BMJ Open. 2022 Jan; 12(1): e051335. (オンライン)	Original Article
128	Ohyama T, Shimbo M, Endo F, et al.	泌尿器科	Late-onset Hem-o-Lok migration into the bladder after robot-assisted radical prostatectomy.	IJU Case Rep. 2022 Jan; 5(1): 49-52.	Case Report
129	Tomita S, Aoki T, Ohde S, et al.	一般内科	Association between health literacy and multimorbidity: a nationwide, cross-sectional study of a Japanese population.	BMJ Open. 2022 Jan; 12(1): e052731. (オンライン)	Original Article
130	Uehara Y.	臨床検査部	Current Status of Staphylococcal Cassette Chromosome mec (SCCmec).	Antibiotics (Basel). 2022 Jan; 11(1): 86. (オンライン)	Review
131	Mizuno N, Yamauchi R, Kawamori J, et al.	放射線腫瘍科	Evaluation of robustness in hybrid intensity-modulated radiation therapy plans generated by commercial software for automated breast planning.	Sci Rep. 2022 Jan; 12(1): 1418. (オンライン)	Original Article
132	Soh M, Hifumi T, Isokawa S, et al.	救急部	Persistent Air Embolism after Blunt Chest Trauma with Recovery to Pre-Existing Consciousness Level: A Case Report and Literature Review.	Neurotrauma Rep. 2022 Jan; 3(1): 38-43.	Review

133	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Adenocarcinoma of the Gastroesophageal Junction Masquerading as Mallory-Weiss Syndrome.	Case Rep Gastroenterol. 2022 Jan; 16(1): 8-13.	Case Report
134	Kawato R, Rokutanda R, Okada M, et al.	リウマチ膠原病センター	Effect of Prophylactic Dose of Trimethoprim-Sulfamethoxazole on Serum Creatinine in Japanese Patients With Connective Tissue Diseases.	Clin Med Insights Arthritis Musculoskelet Disord. 2022 Jan; 15: 11795441221085141. (オンライン)	Original Article
135	Hifumi T, Sakai A, Yamamoto A, et al.	救急部	Rhabdophis tigrinus (Yamakagashi) Bites in Japan Over the Last 50 Years: A Retrospective Survey.	Front Public Health. 2022 Jan; 9: 775458. (オンライン)	Original Article
136	Okamoto T, Fukuda K.	消化器内科	Long-Term Outcomes in Asymptomatic Ulcerative Colitis Diagnosed During Screening Colonoscopy.	Clin Gastroenterol Hepatol. 2022 Feb; 20(2): e319-e325. (オンライン)	Original Article
137	Kobayashi D, Yokota K, Yamagata-Uyama S, et al.	一般内科	Factors associated with the detection of norovirus among asymptomatic adults.	Clin Microbiol Infect. 2022 Feb; 28(2): 299.e1-299.e8.	Original Article
138	Watanabe K, Hamada T, Shimada K, et al.	腎センター	Efficacy of renin-angiotensin-aldosterone system blockades for acute phase hypertensive emergencies in patient complicating severe acute kidney injury.	CEN Case Rep. 2022 Feb; 11(1): 105-109.	Case Report
139	Saito A, Dai Z, Ono M, et al.	循環器内科	The relationship between coronary stent strut thickness and the incidences of clinical outcomes after drug-eluting stent implantation: A systematic review and meta-regression analysis.	Catheter Cardiovasc Interv. 2022 Feb; 99(3): 575-582.	Review
140	Suzuki T, Okamoto T, Kawai F, et al.	消化器内科	Hemolytic Anemia after Acute Hepatitis B Virus Infection: A Case Report and Systematic Review.	Intern Med. 2022 Feb; 61(4): 481-488.	Review
141	Ryu B, Sato S, Mochizuki T, et al.	神経血管内治療科	Angiographic classification of the inferior sagittal sinus based on the venous drainage patterns.	Jpn J Radiol. 2022 Feb; 40(2): 159-166.	Original Article
142	Ichikawa N, Shiina Y, Kijima Y, et al.	臨床検査部	Characteristics of the aortic root morphology in conotruncal anomaly of the congenital heart disease.	J Cardiol. 2022 Feb; 79(2): 277-282.	Original Article
143	Kobayashi D, Yamamoto K, Kimura T, et al.	一般内科	Aspartate aminotransferase/alanine aminotransferase ratio and subsequent cancer development.	Cancer Med. 2022 Feb; 11(3): 798-814.	Original Article

144	Takei T, Nagai N, Ohkoshi K, et al.	眼科	Arm-to-retina time predicts visual outcome of anti-vascular endothelial growth factor treatment for macular edema due to central retinal vein occlusion.	Sci Rep. 2022 Feb; 12(1): 2194. (オンライン)	Original Article
145	Ishikawa K, Matsuo T, Tsuda Y, et al.	感染症科	Factors Associated with Daptomycin-Induced Eosinophilic Pneumonia.	Antibiotics (Basel). 2022 Feb; 11(2): 254. (オンライン)	Original Article
146	Mashimo S, Ogawa T, Kitamura N, et al.	リハビリテーション科	Validity, Responsiveness, and Predictive Ability of the Japanese Version of the Cumulated Ambulation Score in Patients with Hip Fracture.	Prog Rehabil Med. 2022 Feb; 7: 20220005. (オンライン)	Original Article
147	Asano T, Ono M, Dai Z, et al.	循環器内科	Temporal trends in clinical outcomes after percutaneous coronary intervention: a systematic review of 66,327 patients from 25 all-comers trials.	EuroIntervention. 2022 Mar; 17(16): 1318-1329.	Review
148	Fukagawa E, Endo F, Kyono Y, et al.	泌尿器科	Testicular metastasis from urothelial carcinoma of the bladder.	IJU Case Rep. 2022 Mar; 5(2): 79-83.	Case Report
149	Mizuno A, Kusunose K, Kishi T, et al.	循環器内科	Impact of Tweeting Summaries by the Japanese Circulation Society Official Account on Article Viewership - Pilot Trial.	Circ J. 2022 Mar; 86(4): 715-720.	Others
150	Yoshimoto T, Shiratori Y, Ikeya T.	消化器内科	Combination of rubber band traction and partial injection for effective under-gel endoscopic mucosal resection of an ileocecal valve lesion.	VideoGIE. 2022 Mar; 7(3): 112-114.	Case Report
151	Takaoka Y, Hamatani Y, Shibata T, et al.	循環器内科	Quality indicators of palliative care for cardiovascular intensive care.	J Intensive Care. 2022 Mar; 10(1): 15. (オンライン)	Review
152	Okamoto T, Yamamoto K, Fukuda K.	消化器内科	Biliary balloon dilator impaction in a non-dilated bile duct with anatomical variations: a case report.	BMC Gastroenterol. 2022 Mar; 22(1): 129. (オンライン)	Case Report
153	Sueyoshi K, Kojima F, Otsubo K, et al.	呼吸器外科	Single-Direction Approach for Thoracoscopic Segmentectomy of the Left Upper Lobe Anterior Segment With Mediastinal Lingular Artery.	Innovations (Phila). 2022 Mar; 17(2): 156-158.	Others
154	Okamoto T, Yamamoto K, Takasu A, et al.	消化器内科	Findings and outcomes of emergent endoscopies after cardiovascular surgery.	JGH Open. 2022 Mar; 6(3): 179-184.	Original Article

155	Hashimoto Y, Hayashi A, Tonegawa T, et al.	薬剤部	Cost-saving prediction model of transfer to palliative care for terminal cancer patients in a Japanese general hospital.	J Mark Access Health Policy. 2022 Mar; 10(1): 2057651. (オンライン)	Original Article
156	Saito M, Tasaki A, Nozaki T, et al.	整形外科	Two-year follow-up after operative treatment of an osseous Bankart lesion with a flap-detached cartilage lesion of the glenoid: A case report.	Acta Orthop Traumatol Turc. 2022 Mar; 56(2): 152-156.	Case Report
157	Okamoto T.	消化器内科	Malignant biliary obstruction due to metastatic non-hepato-pancreato-biliary cancer.	World J Gastroenterol. 2022 Mar; 28(10): 985-1008.	Review

計157件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「研究倫理審査取扱規程」、「研究倫理審査委員会標準業務手順書」：委員会設置の要件、責務、委員会の構成、会議の成立要件、運営、記録の保存、審査区分フォロー 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 24回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「学校法人聖路加国際大学利益相反マネジメント規程」 ：マネジメントの目的、定義、対象、判断基準、手続き 等 「学校法人聖路加国際大学における研究に係る利益相反管理規程」 ：研究における利益相反管理の目的、定義、報告方法、委員会の設置・構成 等 「臨床研究法における利益相反管理に関する標準業務手順書」 ：臨床研究法に基づく利益相反管理の目的、適用範囲、管理体制 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 5回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>初級者（ベーシックコース）：e-learning（年1回）、2021年度受講者：264名。</p> <p>初級者以外（アドバンストコース）：e-learning（年1回）、2021年度受講者：386名。</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

新専門医制度に基づく研修プログラム
専攻する診療科の研修をはじめ、病棟診療担当業務・救急外来診療業務など、臨床医として幅広い経験を積み、他科との有機的な連携をめざしたチーム医療を実践できる研修を実施しています。また、研究センター・教育センター等の組織を有し、シミュレーション教育や臨床研究をサポートする研修環境を整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	89 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
阿部 世紀	麻酔科	部長	27年	
鹿股 直樹	病理診断科	部長	31年	
百枝 幹雄	産婦人科	部長 (副院長)	38年	
北村 信人	整形外科	部長	29年	
板東 徹	外科	部長	34年	
服部 一紀	泌尿器科	部長 (副院長)	36年	
松井 瑞子	形成外科	部長	34年	
草川 功	小児科	医長	39年	
栗原 泰之	放射線科	部長	38年	
大谷 典生	救急科	部長	24年	
新井 達	皮膚科	部長	31年	
小澤 洋子	眼科	部長	30年	
長浜 正彦	内科	医長	23年	
有岡 宏子	総合診療	部長	36年	
池田 真人	精神科	部長	39年	
岡田 芳和	脳神経外科	部長	48年	
中条 恭子	耳鼻咽喉科	部長	33年	
森 信好	感染症科	部長	17年	
中山 昌明	腎臓内科	部長	38年	
岡田 正人	膠原病科	部長	33年	
木村 哲也	神経内科	部長	29年	
福田 勝之	消化器内科	部長	28年	
山内 英子	乳腺外科	部長 (副院長)	35年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
■人工呼吸器ワークショップ（ベーシック） ・研修の主な内容：人工呼吸器の基本モードと設定、モニタリングと評価、グラフ分析 第1回 ・研修の期間・実施回数：2021年7月21日（土）1回 ・研修の参加人数：看護師10名 第2回 ・研修の期間・実施回数：2022年2月26日（土）1回 ・研修の参加人数：看護師17名、理学療法士2名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
管理者および2021年度新任管理者向け （対象：全職種の部長・医長・マネジャー・教授・准教授・アシスタントマネジャー） ・研修の主な内容 通信研修 「実務に役立つ職場の労務」 ・研修の期間・実施回数 2021/7～2021/10 ・研修の参加人数 350名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 石松 伸一
管理担当者氏名	病院事務部長 渡辺 明良

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	電子カルテ	
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
			紙媒体	
			電子媒体 紙媒体（中央管理）	
			※診療記録の院外への持ち出しは禁止している。業務上必要な理由により院外へ持ち出す場合は、目的等を届け出て、運用責任者の承認を得る。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課人事システム	電子媒体
		高度の医療の提供の実績	医事課	電子媒体
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	院内ネットワーク 研究企画管理部	電子媒体
		高度の医療の研修の実績	教育センター、人事課	電子媒体
		閲覧実績	医事課	電子媒体（実績なし）
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内	電子媒体
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	電子カルテ内	電子媒体
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室	電子媒体
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	Teams>>医療安全管理委員会	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	インシデント報告システム ファントルくん、教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	教職員ポータル >>方針・手順	電子媒体
		院内感染対策のための委員会の開催状況	Teams>>感染予防委員会	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	Teams>>感染予防委員会	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	教職員ポータル>>薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	教職員ポータル>>薬剤部>>ニュースレター	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	受講する各部署	紙媒体
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室部門システム、各部署点検記録	電子媒体および紙媒体		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	使用する各部署	電子媒体		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課人事システム	発令
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	Teams>>薬剤マネジメント委員会	電子媒体
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」	電子媒体
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療記録の運用管理規程」	電子媒体
		医療安全管理部門の設置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院高難度未承認医療評価室運営規程」	電子媒体
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院臨床倫理委員会運営規程」「薬剤マネジメント委員会運営規程」	電子媒体
		監査委員会の設置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療安全監査委員会規程」	電子媒体
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	インシデント報告システムファントルくん	電子媒体
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	院内ネットワーク>>QIセンター医療安全管理室	電子媒体
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	教職員ポータル QIセンター>>医療安全管理室>>「聖路加国際病院安全管理指針」	電子媒体
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「医療安全管理に関する内部通報規程」	電子媒体
職員研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体		

	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体
	管理者が有する権限に関する状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	電子媒体
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	電子媒体
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	電子媒体

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 渡辺 明良
閲覧担当者氏名	医事課マネージャー 利根川 崇
閲覧の求めに応じる場所	東京都中央区明石町9番1号 聖路加国際病院内
閲覧の手続の概要 「聖路加国際病院諸記録閲覧規程」に基づいて、閲覧申請書により、閲覧責任者に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

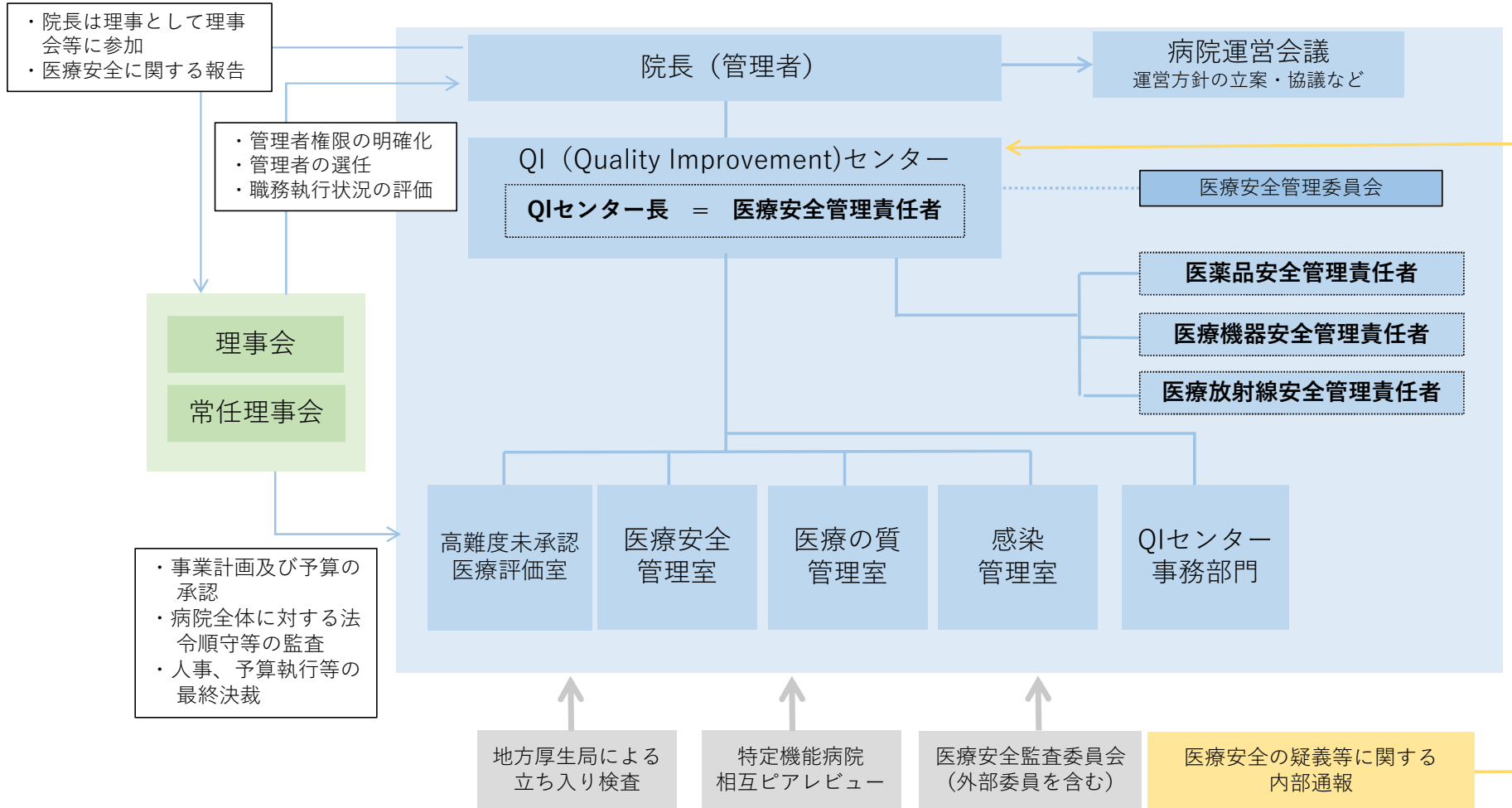
○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

別表1

医療安全管理体制



規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖路加国際病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための組織体制 組織図 QIセンター医療安全管理室運営規程 医療安全管理委員会運営規程 高難度新規医療技術評価委員会運営規程 3. 医療に係る安全管理のための職員研修について 4. 院内報告制度 5. 事故発生時の対応 6. 患者および患者家族の権利保護に関する方針・手順 7. インフォームド・コンセントの方針・手順 8. 患者からの苦情に関する方針・手順 9. 患者相談窓口の活動に関する規約 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> - インシデント・状況報告の集計結果、患者影響レベル3a以上のインシデントの共有 - インシデント・状況報告の対策の検討と立案 - 重大な症例についての関係者ミーティング、RCAの開催報告 - 死亡症例の確認状況の報告、検討を要した死亡症例の報告 - 医療事故調査委員会後の対策の検討 - 「日本医療安全調査機構 医療事故の再発防止に向けた提言15号（薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析）」と当院の現状の検証 - 医療安全監査委員会における委員からの助言・提言事項の報告 - 特定機能病院間の医療安全相互ラウンドの報告 	

- 第三者認証（JCI）受審結果の報告
- 医療安全に関する勉強会の受講状況、鎮静研修の受講状況の報告
- 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者による報告
- CVC院内認定制度の指導医・認定医の認定判定
- CVCセンター化構想に関する提案
- 2020年度医療安全文化調査総括報告
- 2022年度以降の医療安全関連委員会の体制変更の報告
- 下記の改訂または新規作成に関する議論
 改訂：「医療安全管理指針」「患者不在時の対応マニュアル」「転倒転落のリスクアセスメントと予防策の実施に関する方針・手順」「医療安全に係る院内報告制度と医療事故等の対応に関する方針・手順」「CVC挿入における認定医・指導医に関する方針・手順」「患者確認に関する方針・手順」「ネームバンドおよび母児標識の装着に関する方針・手順」「手術および全ての侵襲的処置・治療におけるマーキング、タイムアウトおよびサインアウトの実施に関する方針・手順」
 新規作成：「看護職の静脈注射実施に関する方針・手順」
- 「セーフティマネジメント委員会運営規程」の改訂、「CVC管理小委員会運営細則」「鎮静管理小委員会運営細則」の新規作成に関する議論

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 2 回

研修の内容（すべて）：

- 国際患者安全目標（IPSG）に関する内容
- 院内報告制度
- 予期せぬ死亡と医療事故調査制度
- スタッコーラ
- 効果的なダブルチェックの方法

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 院内外で発生したインシデント事例および予期される事例の分析・対策立案を行い、医療看護安全情報を発信（「間欠的空気圧迫法に用いるスリーブの装着方法」「メイロン静注8.4% 250mlの誤投与防止」「【動脈止血】用ステプティPの新規採用について」「酸素ポンベ使用下での移動について」「医療関連機器圧迫創傷予防について」「サイレース静注に関する注意情報 第2報」）
- 医療安全文化調査の実施と、前年度結果につき各部署管理者へのフィードバック
- 国際患者安全目標に基づく患者確認・有効なコミュニケーション等の実施状況のモニタリング
- 薬剤部・病理診断科・放射線科からの疑義照会データの集計と要因分析・改善策の策定と実施
- 重大なインシデントや死亡症例に関する関係者ミーティングの開催
- 警鐘事例についてのRCAの実施（帝王切開術後の針の遺残、MRCP・CT検査時の患者の取り違い）
- 医療安全管理の適正な実施に対する匿名疑義に対する対応
- 医療安全管理部門による院内ラウンド、セーフティマネジメント委員会によるラウンドによって事故発生リスクの把握と改善策の立案、および改善策実施の確認（特に、自殺防止の観点から環境整備、ガイドライン作成を実施）
- 病院で決めた有害事象（重篤な輸血副反応、鎮静や麻酔に関連する有害事象など）のモニタリング

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関する基本的考え方 2. 医療関連感染予防に関する組織とその役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防委員会 2) 感染予防チーム 3) 抗菌薬適正使用支援チーム 4) QI センター感染管理室 3. 医療関連感染の発生に関する報告と対応 4. 感染予防に関する方針と手順（閲覧に関する内容を含む） 5. 感染予防に関する研修 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院長および各部門を代表する職員で構成され、医療関連感染リスク評価のための各種指標の報告、活動報告、部門報告、方針・手順の改定に関する審議および承認等を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 標準予防（手指衛生、個人防護具） - 感染経路別予防策 - 抗菌薬適正使用 - 医療器具関連感染予防 - 職業感染予防 - 消毒薬の取り扱い - 医療環境管理（廃棄物、リネン） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 新型コロナウイルス感染症の医療関連感染予防のための取り組み 	

- 薬剤耐性菌および*C. difficile*陽性患者発生状況の把握およびフィードバック
- 薬剤耐性菌および*C. difficile*陽性患者に対する接触予防策およびその他の伝播防止の取り組み（保菌のハイリスク群を対象としたスクリーニング検査や退院清掃後のUVC照射等）
- 抗菌薬の使用状況の把握とコンサルテーション
- 手指衛生実施率の把握、評価、フィードバック、実施率向上のための取り組み
- 医療器具関連感染・手術部位感染発生率の把握、フィードバックおよび予防のための取り組み
- 結核感染予防のための早期診断および隔離のための取り組み
- 針刺し・切創・粘膜創傷汚染発生状況の評価と予防のための取り組み
- 清掃の品質評価と改善のための取り組み
- 建築・改築時の感染リスク評価と予防のための取り組み
- 感染性廃棄物の安全な管理に関する取り組み
- ワクチンで予防可能な感染症に対する免疫獲得のための取り組み など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年9回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員対象（e-learning） <ul style="list-style-type: none"> - ハイアラート薬の定義 - ハイアラート薬のストック薬の保管場所、保管方法 - 高濃度電解質の保管部署の制限 - 高濃度電解質の調剤・処方・投与に関する制限 ・ 新入職員・中途入職員対象（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 医師 <ul style="list-style-type: none"> 処方について（廃棄薬・麻薬管理を含む）、処方・薬剤情報検索について - 看護師 <ul style="list-style-type: none"> ハイアラート薬の正しい取り扱いと管理、ストック薬を適切に使用するための注意点 ・ その他、各部署の特性に応じて講義を企画・開催 <ul style="list-style-type: none"> - 手術室看護師 <ul style="list-style-type: none"> 規制薬品の取り扱い、薬剤の準備と調製について - ICU看護師 <ul style="list-style-type: none"> 透析日の抗生剤の追加投与、配合変化、TDM 等 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） 「医薬品の安全使用のための業務手順書 第16版」 ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医薬品安全管理責任者による定期巡回 <ul style="list-style-type: none"> - 薬剤部門や病棟・外来部門において、医薬品安全管理責任者による巡回を定期的を実施。 - 医薬品の取り扱い・保管管理状況が手順書に沿って適正に行われているかを確認する。 - 不履行や改善必要事項などに対し、当該部署の医薬品管理部署責任者にフィードバックをし、改善する。 ② 病棟薬剤師による病棟ストック薬保管管理状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> 1か月に1回、病棟・診療科担当薬剤師が22項目について実施状況を確認する。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に審議された未承認薬は2薬剤、適応外は4件審議された。未承認薬は温熱発汗試験に使用されるミノール法（変法）試薬A・Bが承認後に使用されている。ミノール法（変法）試薬A・Bは、臨床倫理委員会で倫理的側面を審議承認され、薬剤マネジメント委員会で有効性・安全性の側面から審議され承認された。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 調剤過誤削減のため、一包化監査システムを稼働 - PMDA等から配信される医薬品の安全性に関する情報を直ちに入手し、速やかに伝達できる体制を取っている - 発生した医薬品の副作用を医薬品情報室で一元管理している。薬剤マネジメント委員会で報告後、病院内の職員にも周知している。 - 抗癌剤調製過誤防止のため、オンコロジーセンター薬剤室に注射調製支援システムを導入 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年60回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 対象者 新規医療機器導入時使用予定者に対し、また初めて医療機器を使用する職員に対して。特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器6分野に対して。 - 研修内容 医療機器の有効性・安全性・基本的な使用方法に関する事項。 - 研修内容の記録と確認 医療機器研修報告書にて記録後、医療機器安全管理実施責任者→医療機器安全管理責任者→医療安全管理室→院長の順で確認を行う。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 体制 実際に医療機器を管轄する各部門の管理者を医療機器安全管理実施責任者として任命し、医療機器安全管理責任者と協力して管理する。 - 管理方法 医療機器安全管理実施責任者が、医療機器点検の年間計画表、月次報告を作成し、医療機器安全管理責任者へ報告する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 年間計画表 毎年年度初めに、医療機器安全管理実施責任者が各担当の医療機器の年間計画表を作成し、医療機器安全管理責任者の承認を得る。 ➢ 月次報告書 医療機器安全管理実施責任者は、毎月の点検内容や不具合の情報を月次報告書に記載し、医療機器安全管理責任者に報告する。 - 点検方法 厚労省が定めるクラス分類で定期点検、日常点検（故障時対応）を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 定期点検（クラスⅢ・Ⅳ、一部Ⅱ） 添付文書や取扱説明書に沿って実施。必要時には業者と相談し点検内容を検討。医療機器ごとに点検報告書を作成し保管する。点検年月、次回点検予定月が記載されている定期点検済シールを医療機器に貼り付け、当該医療機器の点検状況が使用者に分かるようにする。 ➢ 日常点検・故障時対応（クラスⅠ・Ⅱ） 院内に複数代替機があり、不具合が発生した場合にすぐに交換ができる機器とする。また、使用前・使用后点検など日常点検を実施し基本性能や安全性の確認を行う。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 情報収集 医療機器安全管理責任者、医療機器安全管理実施責任者、機器の購入・管理に係る物品管理課などが、医薬品医療機器総合機構（PMDA）に登録を行い、医療機器の情報収集を行う。また、メーカーとも連携して情報収集を行う。 - 病院運営会議への報告 医療機器安全管理責任者は、医療機器安全管理実施責任者から報告される月次報告などに基づき、医療機器の安全管理状況及び推奨事項を四半期に一度、病院管理者へ報告する。 - 医療機器安全管理委員会の開催 	

医療機器安全管理体制をより推進していくことを目的に2021年7月に医療機器安全委員会を新規設置した。医療機器の管理に関しての情報共有や問題点を検討するために月に一度開催する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格（医師・歯科医師） 責任者：副院長、QIセンター長（医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>別表1「医療安全管理体制」を参照</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内組織（薬剤マネジメント委員会）により、厚生労働省、東京都およびPMDAから通知される医薬品に関する情報を収集・集約し、必要に応じてその使用に関わる部門、医師、薬剤師、看護師等に直接、あるいはメール等で周知し、安全確保に最善を尽くしている。 また、患者における健康被害が最小限となるよう、回収などの対応を院内および地域保健薬局とも連携協働し、迅速に行っている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内組織（臨床倫理委員会・薬剤マネジメント委員会）にて院内使用状況の把握及び安全使用の観点より、未承認薬使用の申請の手続きならびに審査を実施している。 また、当該医薬品の安全管理と使用状況の把握のため、薬剤部内にて管理している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：（所属：薬剤部， 職種：薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「インフォームド・コンセントに関する方針・手順」において、包括同意にて同意を確認する医療行為、文書を用いた同意の確認が必要な医療行為、同席者が必要な医療行為、代諾者の定義、診療録記載方法等を明示。 ・ 上記に基づいたインフォームド・コンセントの状況のモニタリングを実施。 ・ 説明・同意文書の審査システムを構築。（具体的なシステム：説明・同意文書に必要な項目を網羅した院内の「雛形」に従って各診療科・部署で作成した説明・同意文書をインフォームド・コンセント委員会に申請し、委員による査読を経て承認後に診療録に登録する。） 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>初診時記録記載率、毎日の記録記載率、手術レコード 24 時間以内作成率、手術レコード出血量記載欄記載率、手術レコード検体名・検体数記載欄記載率、研修医の記載に対する指導医の追記率、退院サマリー作成率、複写による記載（コピー&ペースト）率、略語使用率などを定期的に監査し、医師全体への周知、診療科・個別の医師へのフィードバックを行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（7）名、専任（0）名、兼任（22）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（7）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち看護師：専従（5）名、専任（ ）名、兼任（4）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 医療安全管理のための指針の策定 - セーフティマネジメント委員会の運営 - 医療に係る安全管理のための職員研修の実施 - 事故及びその他管理者が医療安全管理部門において取り扱うことが必要と認める事象が発生した場合における①診療録その他の診療に関する記録の確認、②患者又はその家族への説明、③当該事象の原因の究明の実施、④その他の対応状況の確認、⑤当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導 - 医療安全管理に係る連絡調整 - 医療安全の確保のための対策の推進（プロアクティブな活動を含む） - 医療安全の確保のための診療内容の現状把握並びに医療安全に関する職員の意識向上及びその状況確認 - 各部門の医療安全対策の実施状況の評価に基づいた医療安全確保のための業務改善計画書作成、及びそれに基づく医療安全対策の実施状況の評価とその記録 - 医療安全管理者の業務、及び医療安全管理室の活動実績の記録 - 医療安全対策に係る取り組みの評価等を目的とした週 1 回程度の定期的なカンファレンスの開催 - 入院患者の死亡の事実及び死亡前の状況の確認、入院患者の死亡以外で通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院が定める水準以上の事象が発生したときの当該事象の発生事実、発生前の状況の確認および院長への報告 	

- 院内における合併症の発症状況の確認
- 年に1回以上の医療安全管理改善を目的とする他院の職員との相互訪問、評価、技術的助言の交換

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の提供の適否等について高難度新規医療技術評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえて、高難度新規医療技術の提供の適否等についての評価・決定を行う。
 - 提供された高難度新規医療技術の実施状況や遵守状況に関する確認を行う。
 - 高難度新規医療技術の提供体制の改善、技術の停止について院長に提言する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：

未承認薬については、臨床倫理委員会で倫理的側面を審議し、薬剤マネジメント委員会で有効性・安全性を審議して評価する。未承認医療機器については、医療機器安全管理責任者を含めた臨床倫理委員会で倫理的側面・有効性・安全性を審議して評価する。臨床倫理委員会および薬剤部にて、未承認薬等の使用状況についての確認を行う。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : インシデント報告・状況報告のうち、死亡事例は年 10 件 ※2019 年 4 月より入院患者の死亡を医療安全管理部門が全件把握しており、2021 年 4 月～2022 年 3 月までの報告件数は 502 件。 ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 92 件 ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 -事象の情報共有 事象に対する当院の現状把握と改善案の検討
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名 : 埼玉医科大学病院) ・ 無) ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名 : 埼玉医科大学病院) ・ 無) ・ 技術的助言の実施状況 ① 医療安全管理委員会の体制、②リスクマネジャーの役割、③医療安全ラウンドの内容 に関する当院からの質問に対し助言をいただいた。それに対して以下のように改善を行った。 ① 2022 年度より医療安全管理委員会と各小委員会の在り方を再検討した。医療安全管理委員会は病院上層部を中心とした委員構成に変更した。 ② 2022 年度より各部署の医療安全リーダーを医療安全推進者に名称変更し、アシスタントマネジャー (医師の場合は副医長) 以上のスタッフが医療安全推進者を担うこととした。医療安全推進者は医療安全推進小委員会の委員となり、各部署における医療安全を推進する役割を担う。 ③ 2022 年度より各部署の医療安全推進者が医療安全ラウンドとして相互訪問することを開始した。
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の確保状況 患者相談窓口を設置し、医療安全等に関する要望・訴えを含む患者・患者家族等からの相談を受けている。患者が病院に対する各種要望・意見を投書するご意見箱と患者相談窓口寄せられた相談内容を患者サービス課が集計・分類・状況確認・対応方針の検討を行い、全件を関係者に情報共有すると共に、内容に応じてご意見対応ミーティングにて、管理者出席のもと、対応方針を

決定している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者・中途入職者・復職者に対して医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する院内研修を実施。

さらに全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関するe-learningを通年開講し、全職員が年2回以上受講することとしている。加えて、重点課題をテーマにした勉強会も開催している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

① 院内研修

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を含む、院内の全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関するe-learningを通年開講し、全職員が年2回以上受講することとしている。

② 院外研修

管理者(石松) 特定機能病院管理者研修 受講 (2021年12月15日)

医療安全管理責任者(小宮山) 日本病院会 医療安全管理者養成講習会受講 (2018年度)

医薬品安全管理責任者(後藤) 日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会 (2019年度)

医療機器安全管理責任者(服部) 医療安全全国共同活動 医療安全管理者養成研修 (2021年度)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和3年12月20日—24日 Joint Commission International 認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院 HP に掲載（HOME＞病院紹介＞情報公開）

・評価を踏まえ講じた措置

評価：

- ① 小児・新生児・3階手術室等の救急カートの内容・運用が標準化されていない。
- ② JCI では同意書に書くべき項目を8つ定めているが、審査時に確認した同意書では6項目しか書かれていなかった。
- ③ 中央滅菌室、内視鏡室で器材洗浄において耐貫通性の手袋を着用していない。

措置：

- ① 産科領域を含めた成人・小児・新生児用の救急カートは、内容および管理方法含め、全て救急・集中治療部門運営委員会の管理下におき、原則として統一した内容とし、中央管理を行う。内容物・管理方法の決定・承認も救急・集中治療部門運営委員会で行い、「救急カートに関する方針・手順」に明記し、院内関係者に周知する。
- ② 同意書に書くべき8つの項目を網羅した「雛形」を用いた説明・同意文書に移行することを、業務通達の発信によって院内に周知した。新しい雛形を用いた説明・同意文書移行を希望する場合には今年度中に申請手続きがなされ、申請がない文書は登録削除をする。
- ③ 耐穿破・切創および耐薬剤性が担保された製品の選定と、導入部署の検討を行う。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<p>・ 基準の主な内容 聖路加国際病院院長任用規程より (院長の資格) 第2条 院長は、人格高潔にして学識に富み、病院運営の方針を実現する医療面の責任者であるとともに、理事会の重要な一員として、法人の経営に参画するに相応しい者でなければならない。 2 院長は、聖路加国際大学学長を兼任できないものとする。</p> <p>(院長候補者要件) 第8条 院長の候補者は以下の基準を満たした者とする。 (1) 聖路加国際病院（以下「病院」という）の理念を踏まえたキリスト教信徒であること。ただし、当該候補者がキリスト教信徒でない場合は、キリスト教精神を尊重する者であること。 (2) 日本国内の医師免許を有し、保険医の登録を受けている者であること。 (3) 医療の安全の確保のため、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢及び能力を有している者であること。 (4) 病院の適正な管理運営に必要な資質及び能力、ならびに病院内外での組織管理経験を有している者であること。 (5) 高度医療の提供、高度医療技術の開発及び評価、高度医療に関する研修等、病院が行う医療およびその発展にリーダーシップを発揮できる者であること。 (6) 医療提供と安定的な経営とのバランスを考えた、健全で全体最適な病院経営を担える者であること。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 (病院紹介>情報公開>聖路加国際病院院長任用規程・聖路加国際病院院長任用細則)</p>	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無)</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無)</p> <p>・ 公表の方法</p>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営会議で運営方針の立案・協議、経営管理・管理の実施に関する審議を行っている。 (聖路加国際病院 病院運営会議規程第2条) ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院管理協議会、部長管理医長会、事務連絡協議会など各種会議で周知。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 (病院紹介>情報公開>病院運営会議規程) ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 理事会、評議員会、常任理事会で外部有識者からの意見を聴取している。 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
石松 伸一	○	医師	院長
小宮山 伸之		医師	副院長 (医療安全管理責任者兼務)
山内 英子		医師	副院長
服部 一紀		医師	副院長 (医療機器安全管理責任者兼務)
鈴木 千晴		看護師	看護部長 (副院長兼務)
後藤 一美		薬剤師	薬剤部長 (医薬品安全管理責任者兼務)
神崎 扇洋		放射線技師	コメディカル部長
渡辺 明良		事務	法人事務局長兼病院事務部長
佐々木 新一		役員	理事長
堀内 成子		教員	学長
佐藤 剛		役員	常務理事
伊藤 数馬		役員	常務理事
菊地 美佐子		役員	常勤監事
栗原 泰之		医師	医療放射線安全管理責任者

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

病院ホームページにて公表

（病院紹介＞情報公開＞聖路加国際病院運営規則および学校法人聖路加国際大学稟議書運用細則

- ・ 規程の主な内容

病院運営規則第7条において、院長の職務を規定している。

- （1）病院経営方針の立案。
- （2）病院の経営方針に基づく事業計画の策定と実行の管理。
- （3）病院各部門の業務計画の承認および実行の管理。
- （4）病院各部門の予算執行の承認および実行の管理。
- （5）その他病院運営に関する院長業務。

また、稟議書運用細則において、管理者が有する組織・人事等の決裁権限を定めている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - （1）副院長を4名任命し、経営方針の立案に参画等の職務を担う。
 - （2）病院事務部医事課企画係において、病院運営における課題等に対する企画・立案・改善等に関する業務、病院業績指標に関する業務、その他病院運営に関する業務を行う
 - （3）上記のほか、院長付の事務スタッフを3名任命し、院長の職務遂行に必要なデータ管理、企画・立案・改善のサポートを行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - （1）職能資格制度運用細則・役割等級制度運用細則に基づき、職位に応じた人事考課を行っている。
 - （2）毎年、管理者の職位にあるものに対しては管理者研修を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>第1回委員会：2021年6月18日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での委員会開催を中止し、書面開催とした。報告資料に基づき4つの議題の報告と、配布資料により2つの会議の議事録が共有された。それらについて委員からメールで評価と助言・提言がなされた。</p> <p>● 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 医療機器安全管理委員会新規設置のご報告 ・ 医療事故の公表の方針のご報告 ・ 医療安全・感染対策に関する研修方法のご報告 <p>● 配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティマネジメント委員会（法令上の「医療に係る安全のための委員会」に該当）議事録 2021年3月～2021年9月分 ・ 重大インシデントの関係者ミーティング議事録、報告書 <p>第2回委員会：2022年2月4日に、Zoomを用いて開催した。報告資料に基づき7つの議題の報告と、配布資料により2つの会議の議事録が共有された。</p> <p>● 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 11/17 医療法25条第3項立入検査の報告 ・ 12/20-24 JCI 認定更新審査の報告 ・ 医療事故発生時の公表の方針の検討 ・ 高難度新規医療技術の導入や未承認新規医薬品についての審査状況等報告 ・ CVC 制度全体像 ・ 定量的経時的にモニタリングしている項目の報告 <p>● 配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティマネジメント委員会（法令上の「医療に係る安全のための委員会」に該当）議事録 2021 	

年 10 月～2021 年 12 月分

・ 重大インシデントの関係者ミーティング議事録、報告書

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 委員名簿の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法：病院ホームページで公表

(病院紹介>QI センター>医療安全監査委員会)

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部 附属病院 医療安全担当副 病院長 医療安全管理部 部長	○	千葉大学医学部附 属病院において医 療安全担当副病 院長を務められ、 医療安全に関する 知識や実績が豊 富なこと。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
滝沢牧子	群馬大学医学部 附属病院 医療の質・安全 管理部 副部長		群馬大学医学部附 属病院において医 療の質・安全管理 部の助教を務め られ、医療安全全 般に関する知識が 豊富であること。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
七里守	榊原記念病院 循環器内科 主 任部長		医療に係る安全管 理又は法律に関 する識見を有す る者 その他の学識経 験を有する者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
渡邊俊太郎	翼法律事務所 弁護士		関連法務から企 業法務まで幅 広い分野で活躍 され、医療事故 調査委員とし ての実績も十分 なこと。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
小林信秋	認定 NPO 法人 難病のこども支 援全国ネットワ ーク		長年にわたって 患者支援活動 を行っており、 医療を受ける 者の代表とし て適任である こと。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
専門部署として内部統制監査室を設置。
そのほか、理事会および常任理事会（監事が出席）も同様の役割を担っている。
- ・専門部署の設置の有無（ ・無 ）
- ・内部規程の整備の有無（ ・無 ）
- ・内部規程の公表の有無（ ・無 ）
- ・公表の方法 病院ホームページで公表
（病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学内部監査細則」、「学校法人聖路加国際大学
寄付行為」、「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」および「学校法人聖路加国際大学
常任理事会規程」）

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人聖路加国際大学寄附行為に基づき、理事会が病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 定例：年3回、臨時：年3回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（定例：年3回、臨時：年3回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法 （病院紹介>情報公開>「学校法人聖路加国際大学寄附行為」「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」） 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 2 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法
管理協議会等の各種会議および院内メールで周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ホームページにおいて発信</p> <p>キリスト教精神に基づき、先端的な教育・研究に支えられた「質の高い安全な医療」を実践する高度急性期病院でありながら、緩和医療や外来診療が中心となる分野まで広くカバーする総合病院の在り方を追求し、患者さんと社会から信頼される医療を提供する。</p> <p>【運営の基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「患者との協働医療」を実現するため、患者の価値観に配慮した医療を行う。2. 医療の質を高めるため、「根拠に基づいた医療」を実践する。3. 全人的医療を行うため、全職員の専門性を結集する。4. 地域住民の医療・介護・保健・福祉に貢献するため、地域の医療者・施設と連携する。5. 国内外の医療の発展に資するため、優れた医療人を育成する。6. 医療の発展に寄与するため、現場に根ざした研究を行う。7. 国際病院としての役割を果たすため、海外からの患者の受け入れ態勢を整える。8. 上記 7 項目を実現し継続するため、健全な病院経営を行う。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>疾患ごとに診療科横断的な治療を目的とし、下記の通り複数の診療科・多職種から構成されるセンター化を推し進めている。</p>	

小児総合医療センター、救命救急センター、ブレストセンター、腎センター、リウマチ膠原病センター、周術期センター、認知症疾患医療センター、ヘルニアセンター、生殖医療センター、AYAサバイバーシップセンター、スポーツ総合医療センター、がん・ゲノムセンター、ロボット手術センター、オンコロジーセンター、リハビリセンター、遺伝診療センター、呼吸器センター、消化器センター、心血管センター、脳・神経センター、リエゾンセンター